

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年12月3日（水）

2 確認箇所

大型廃棄物保管庫（図1）

3 確認項目

- （1）大型廃棄物保管庫耐震補強工事の状況
- （2）協力企業作業員負傷を踏まえた再発防止対策の実施状況

4 確認結果の概要

（1）大型廃棄物保管庫耐震補強工事の状況

大型廃棄物保管庫（以下「保管庫」という。）は、屋外で一時保管されている使用済セシウム吸着塔を保管するため、5／6号機北側造成地内に整備されている。保管庫については、令和5年6月に原子力規制委員会による使用前検査を完了したが、令和3年2月及び令和4年3月の福島県沖地震を踏まえ、原子力規制委員会が策定した「東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所における耐震クラス分類と地震動の適用の考え方（令和4年11月）」に基づく耐震クラスの見直しにより、建屋本体の耐震補強等が必要となり、追加工事を実施している。

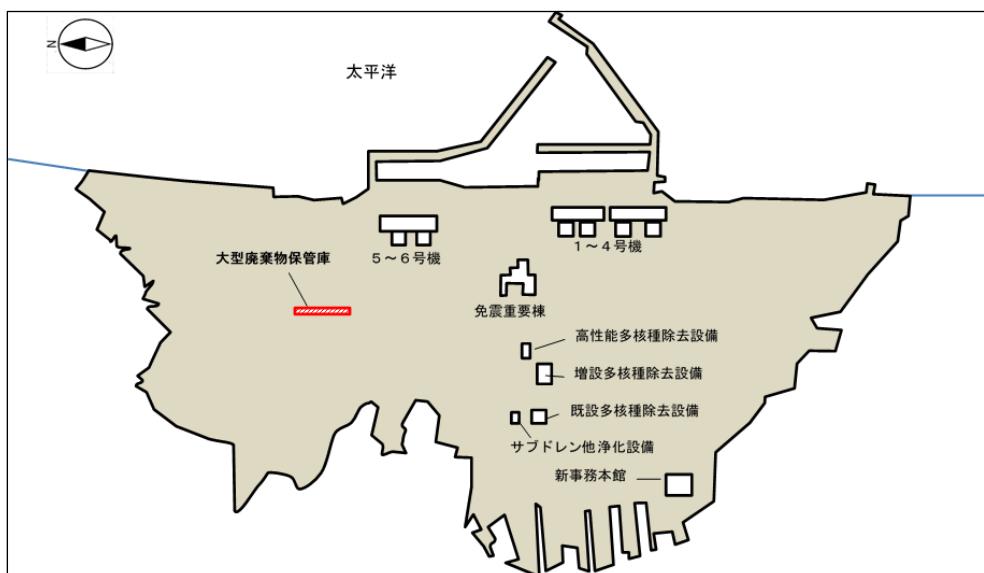
今回は、保管庫の耐震補強工事の進捗状況について確認した。（前回確認：令和7年8月21日）

- ・保管庫東側では、増設された基礎スラブ上に、建屋補強を目的としたバットレス（控え壁）の設置工事が進められていた。（写真1）
- ・バットレスは4本の鉄骨柱を組み合わせた構造となっており、その上端部は鉄骨ブラケットと接続されていた。
- ・バットレスの設置は北側から順に進められており、現場確認時には鉄骨の組立作業が実施されていた。鉄骨組立に伴う玉掛け作業については、玉掛け者と合図者が連携して実施しており、安全に作業が進められていた。（写真2）
- ・鉄骨下部では溶接作業が実施されており、その作業は不燃シートで囲われた内部で行われていた。また、火気監視人が常時配置されていた。（写真3）
- ・現場においては、資機材の散逸等の異常は確認されず、整理整頓が適切に実施されていた。

(2) 協力企業作業員負傷を踏まえた再発防止対策の実施状況

令和7年10月9日に保管庫において発生した協力企業作業員の負傷事案を踏まえた再発防止対策が完了したとの報告を東京電力から受けたため、同社担当者からその内容について聴取した。

- ・負傷者発生時の状況として、電動トルクレンチの反力受けとボルトとの間に指を挟んだ状況について説明を受けた。また、指挟みを防止するため、電動トルクレンチにカバーを取り付ける対策について説明を受けた。（写真4）
- ・当該対策については、実際に作業を行う作業員からの意見を踏まえて採用したことであった。
- ・当該対策実施後は、電動トルクレンチ使用時の指挟みは発生していないとのことであった。また、構内で実施されている他工事においても、同種の電動トルクレンチを使用する作業に対し、同対策を水平展開したことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
バットレスの設置状況



(写真2)
鉄骨組立作業の状況



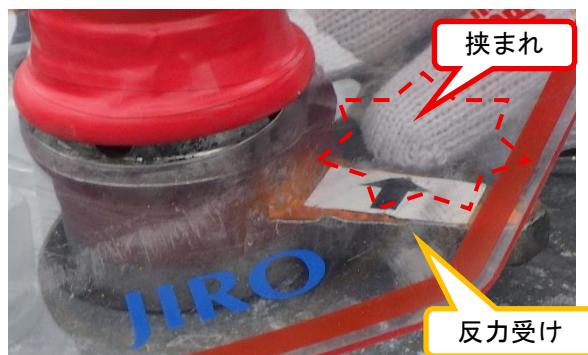
(写真3)
溶接作業の状況



(写真4-1)
電動トルクレンチの正しい使い方
※反力受けに指が触れる事はない



(写真4-2)
負傷者発生時の状況及び対策①
※発生時挟まれ防止カバーは取り付けられていない



(写真 4－2)

負傷者発生時の状況及び対策②

※発生時挟まれ防止カバーは取り付けられていない

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。